溝口祭典会報紙 こもれび

2020（令和２年）１月 №143

おかげさまで
溝口祭典は創業 112 年

みんな生きている

日本人は、江戸時代頃までは、指で触れた草木に毒があるか否か、また食用に適しているかなどを瞬時に判ったと、著名な経営コンサルタントの講演で聞いたことがあります。

そう思うと世の中には私も含めて鈍い人は少なからずいますが、何をもって鈍感というのか迷うところです。

『動物たちの自然健康法・野生の知恵に学ぶ』（シンディ・エンジェル著）は、植物の自己防衛策について次のように紹介しています。そのほんの一部を抜粋します。

「植物は病気や様々な捕食者から身を守るために、自ら特別な防御タンパク質を作る。たとえば、サポニンという化学合成物質はカタツムリ、昆虫、菌類、細菌の攻撃から身を守る。また非常に渋いタンニンという物質は、草食動物の摂食を防ぐ効果がある。

そしてセイタカアワダチソウなどは他の植物の成長を妨げる物質を出し、周囲に生えている他の植物を攻撃し生育や発芽をコントロールしている。

またキュウリはハダニが葉肉を食い進むと揮発性の化合物を放出して、ハダニの天敵を引き付け、捕食者がまっしぐらにやってきてハダニを食べるのである。」

私の知らないところで様々な戦いのドラマが繰り広げられています。そんなことなど何ひとつ考えないで花木の剪定や水やりをしていますが、あらためていのちを一生懸命に生きている彼らに心が動きます。

私は家のリビングに三十年近くいるサボテンの、その三本出ている手にもふれながら、毎朝毎晩欠かさず声を掛けてきました。うっかりしてトゲで指をさすこともありますが、それも彼の防衛行為なのか、または何かの警告をしてくれているのかもしれません。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社 溝口祭典
溝口勝巳

２月と３月 ／ 催し物のご案内

◆ **「葬儀保険」って何？ ～葬儀費用と葬儀保険について～**（無料）

２月 19 日（水）10 時～11 時

自分のお葬式のためにどのくらい用意をしておけばいいのか？
その目安の葬儀費用の総額をご案内いたします。
家族葬だと安くなる？ 一日葬だと安くなる？ お布施はどのくらい？
葬儀費用をカバーする『葬儀保険』について、保険金や掛金加入条件などを丁寧にご説明いたします。
様々な質問にも経験豊富な相談員が個別に対応いたします。

※上記以外の日時をご希望のかたも是非ご連絡ください。

◆ **「納棺のすべて－亡き人を送り出すために」**（無料）

～現役納棺師による納棺の実演をお見せします～

３月７日(土)・３月 13 日(金) 10 時～11 時

葬儀担当者と現役の納棺師が「納棺」について熱く語ります。
＊亡き人をお棺に納める際に、なぜ「旅支度」をするのか？
＊なぜ、亡き人の体を拭くときに逆さ水を用意するのか？
＊きれいなお別れができるために、納棺師は何をしているのか？
※まちゼミにも掲載中!!

場所：こすもす斎場　八王子市元横山町 2-14-19
講 師 ／ 上原 武史（式典部主任･一級葬祭ディレクター）

・ご参加者全員に粗品をプレゼントいたします！
・希望者にはセミナー終了後、個別相談も承ります

■お申込み･お問合せ ＊事前にお申込みください
株式会社 溝口祭典　042-642-0921

● 三休さんの年末テスト答え合わせ ●

1. 内田裕也・樹木希林・西城秀樹　　2. 臨済宗・曹洞宗
3. ①○、②○、③×（キリストの降誕の日です）④○、⑤○
⑥×（増上寺）4. 蓮（ハスでも可）

全問正解者は 12 名でしたので、粗品をプレゼントいたします。
次回のご応募をお待ちしています。　三休

［編集後記］

八王子恒例の七福神めぐりに出掛ける方々が、とても楽しそうにしていると紙面中にあります。

その反面、国内外で物騒な事件や紛争が頻繁に起きています。

皆が健康で、仲よく楽しく暮らすことは、簡単そうに見えて、実は非常に難しい、人類最大のテーマで、それを阻む原因が石ころのようにいたる所に落ちています。

左の画像は、家の犬が隣の屋根に留まっている鳥を眺めているところです。その屈託のない後姿を見て、あらためて平和の尊さを深く思います。

こもれび １月号（隔月 15 日発行）2020 年 1 月 15 日 発行 第 143 号　«4000 部発行»
発行/株式会社溝口祭典 発行人/溝口勝巳　〒192-0063 八王子市元横山町2-14-19　TEL042(642)0921

八王子七福神

伊藤 恵里子

「令和初の七福神めぐりで2020年をスタートしました！」

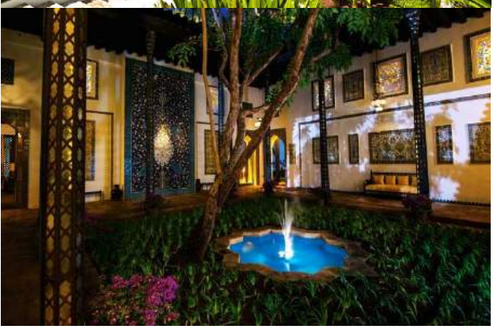
今年の元日は、きれいな青空が広がり、清々しい令和二年の幕開けでしたね。

その青空の下、七福神めぐりをしてきました。今まで行ってみようかなと思いつつ、なかなか一歩が踏み出せませんでしたが、昨年七福神めぐりの記事を書き、前回のタイトル通り「令和初の七福神めぐりで二〇二〇年をスタートしよう」と一念発起した次第です。（ちょっとオーバーですね・・・）

元旦の午後、自宅に一番近い、開運勝利の神様・毘沙門天を祀る本立寺からスタートし、信松院で、家庭円満の神様・布袋尊のお腹をさすり、福寿無量の神様・福禄寿を祀る金剛院へと移動、最後は商売繁盛の神様・恵比寿天を祀る成田山伝法院へとお参りしました。この日は天気もよく暖かかったためか、どのお寺でも、ご朱印をいただく人達の行列ができていました。

後半は四日に四ケ寺まわってきました。弊社は三日が仕事始め、四日の午後事務所を抜け出し、まずは一番会社から遠い吉祥院へ。ここにある福徳自在の神様・吉祥天は一般的な七福神には入っていませんが、縁起の良い末広がりの数「八」と八王子の「八」に因み七福神に仲間入りした神様です。次に不老長寿の神様・寿老尊を祀る宗格院をお参りし、了法寺で良縁成就の神様・新護弁財天を参拝。締めくくりに健康増進の神様・走大黒天を祀る善龍寺でめぐりおさめとなり、ここで色紙に令和二年一月四日と日付を書いていただきました。

家族や友人など大勢で訪れる人たちや、本格的なカメラを手にまわっている人など、皆さん理由・動機はそれぞれだと思いますが、どなたもとても楽しそうにまわっているのが印象的でした。



ハワイの中の異国 ― シャングリ・ラ

今回は、ハワイを何度も訪れている人にも意外と知られていない場所をご紹介します。

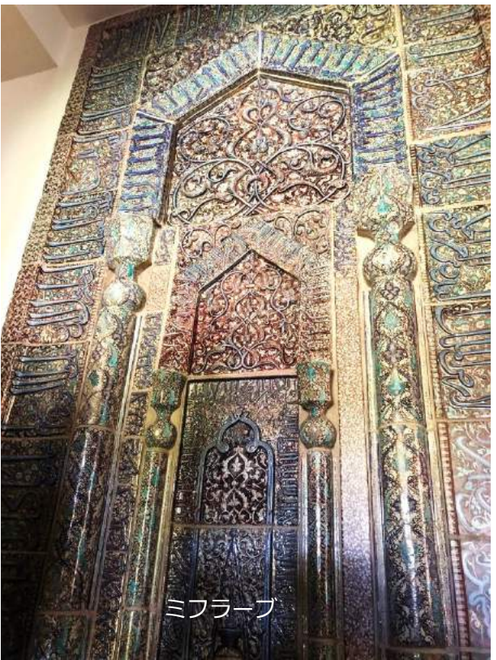
それは、イスラム美術があふれる豪邸「シャングリ・ラ」です。

この邸宅の元々の持ち主は、ニューヨーク生まれのドリス デューク（1912～1993年）で、タバコと電気会社の経営で成功し一代で巨万の富をなした父の莫大な遺産を十二歳で相続し、当時「世界一裕福な少女」と言われた女性です。慈善家として活動する一方、二十二歳で結婚、世界一周の新婚旅行中に見たイスラム建築や美術品に興味を抱き、また旅行の最終地であるハワイの自然に魅せられ、六千坪以上の土地を手に入れ、イスラム美を極めたシャングリ・ラ（理想郷）を作り始めました。

彼女が収集したコレクションの数々は、素晴らしいものばかりで、ここがハワイであることを忘れてしまうくらいです。

ニューヨークのメトロポリタン美術館と競り合い購入したミフラーブ（イスラム教の礼拝堂モスクの最奥に設置した聖龕（せいがん））は、なんと土地の購入費用と同じ位とか。

フロリダの自宅よりも愛情を注いだ邸宅は一九三七年に完成しましたが、三五〇〇点以上ものイスラムアートに囲まれて多くの時をここで過ごしました。


ミフラーブ

こもれび読んで、**ハワイに行こう！**

第６回　伊藤 恵里子

子供のいなかった彼女は八十歳で亡くなった時に、遺志により不動産や資産のほとんどを彼女の名前を冠した財団に寄付し、現在は予約制で公開されています。

想像もつかないような金額をかけて作られた、ドリスの理想郷は本当に美しく、一度は行くことをお勧めします。普段見ることのできない貴重な品々ばかりで、何度でも訪れたい場所です。

日本語ツアーは、参加費二十五ドルで、週二回水曜・金曜の正午にホノルル美術館を出発。ビデオは禁止ですがカメラやスマホ撮影は許可されています。

ハワイに行ったら参加してみたいという方は、ご連絡ください。予約方法や行き方などお教えいたします。

植物と遊ぶ
植物と暮らす

大谷知久 第12回

ボタニカルカフェ
フェリーチェで昼食を

閑話休題・・・何と読みますか？ある小説の中で「それはさておき」と読ませている場面がありました。言葉の意味や使い方は時代とともに変わってしまうものもありますが、文章を書く者としては綺麗な日本語を使っていきたいですね。

閑話休題。寒い冬は植物のお話も一休み。ということで、グリーンを感じられるボタニカルカフェを探しに出てみました。

練馬区中村南にあるカフェ・フェリーチェ。西武新宿線の都立家政駅から徒歩１０分。住宅街の中にお洒落な建物があります。

店内はとても静かで、インテリアグリーンの多いアンティークな雰囲気は、まるで映画のワンシーンに入り込んだかのようです。

日替わりパニーニやサラダも美味しく、デザートまでゆっくりしたくなる空間が、満足のいく食事を後押ししています。

暖かい室内でグリーンを楽しむことができますが、隣は緑地地域なので建物もなく、緑が繁っているので外のテラス席もおススメです。床に枕木を敷いてあり、一部朽ちかけているのもとても風情があります。冬でもストーブがあるので、コーヒーを飲みながら野鳥の声に耳を傾けてみるのも良いかもしれませんね。

二階にはイタリアンレストラン、向かいは良い雰囲気のお花屋さん。どうぞフェリーチェで昼食を。

東京都練馬区中村南
1-27-20
ガーデンスクウェア１Ｆ
03-3825-2992

毎年、色紙中央の宝船の色は変わるそうですが、今年は赤でした。また、ご朱印がすべて捺された色紙を持参した先着千名には駅ビルで手ぬぐいをいただけるという話でしたが、一月三日の午前中で終了したそうです。来年七福神めぐりをして、手ぬぐいをいただきたい方は、先手必勝ということをお忘れなく。

こもれびの企画で行った七福神めぐりでしたが、たくさんの笑顔に会え、良い一年のスタートを切れたのが、私にとっての最大のご利益だったと思います。

＊　＊　＊　＊　＊

読者の皆さんにもお福分で、今回の七福神巡りのご朱印色紙をこもれび読者の皆さん三名に抽選でプレゼントいたします。

はがきに、会員様のご住所　お名前　電話番号を明記の上、
「〒一九二-〇〇六三
八王子市元横山町二-十四-十九
（株）溝口祭典　七福神色紙プレゼント係」までお送りください。
締め切りは二月十五日に弊社必着とします。
たくさんのご応募をお待ちしています。

八王子・フードバンク・子ども食堂

フードバンク八王子　代表理事・國本康浩（第６回）

本稿を書いているのは、令和元年の年末。そこで、鬼が笑うかもしれませんが、今回は「来年の抱負」を語ってみたいと思います。

ただし、ただの思いつきではありません。この二年近く、ずっとあたためてきた構想です。果たして、来年、この構想が実現するでしょうか？

第三の居場所としての子ども食堂

八王子の子ども・地域食堂は、二十箇所近くにも増えてきました。ネットで「八王子食堂ネットワーク」というキーワードで検索してみてください。そのＨＰをご覧頂ければ詳細を知ることができます。

しかし、まだまだ足りない。私たちは、そう思っています。

理想的には、小学校区に一つ。なぜ、それほどの数が必要なのでしょうか？

子どもにとって、第一の居場所とは、もちろん家庭です。しかし、いろんな事情で、家庭が居づらい状態になることがあります。

そのような時、救いになるような第二の居場所は、学校です。そこでは、家庭とは区切られた友だちとの世界があるからです。

ところが、この学校が、いろんな事情で居づらい状態になることがあります。家庭も居づらい、学校も居づらい、そのような時、子どもは、一体、どこに行けばよいのでしょうか？

家庭でもなく、学校でもなく、歩いて行ける距離にあって、子どもが安心できる場所。

昔であれば、おばあちゃんや親類のおじさんの家があったかもしれません。あるいは、遊び場所になっていた近所のお寺だったかもしれません。

しかし、今は、ほとんどの子どもたちに、そのような場所はないのです。

子ども食堂は、現在、このような居場所として、つまり、家庭でもなく学校でもない「第三の居場所」として、徐々に機能し始めています。

例えば、学校には行かないけれど、子ども食堂には行く、そんな子どもたちがいます。言葉を替えて言えば、その子どもたちは、子ども食堂を通じて、かろうじて社会へとつながっているのです。

だから、私たちは、小学校区に一つは子ども食堂があるべきだと考えているのです。

くにもと やすひろ　／　2016年６月、一般社団法人フードバンク八王子を設立。以後、実に様々な人たちに支えられながら、川久保美紀子や小島明子と共に毎日を走り回っている。八王子の地に「地域共生社会」を実現することを夢見ているが、ただの夢想家のつもりはなく、徹底したリアリストの目で、抽象論ではなく具体的にどのような地域社会を構想すべきか、そもそも「我々は果たして共生社会に耐えられるのか？」との自問自答を繰り返している。この夢が、現在のヨーロッパやアメリカの如く、悪夢へと変貌しないことを祈るばかりだ。

地域拠点への深化

しかし、子ども食堂が、この「第三の居場所」としての役割を果たすことは、容易ではありません。

家庭でも学校でも、自分の居場所を失った子どもをサポートするためには、子どもを取り巻く地域の状況、学校での状況、家庭での状況など、一歩踏み込んだ状況を把握することが必要になるからです。

そういった時、子ども食堂の「中」だけでは、どうしても限界があります。そのためには、子ども食堂が、そこから一歩外に出て、地域や学校とのネットワークを作っていくことが必要です。

これは、子ども食堂が、食堂という殻を破って、地域の「拠点」として深化してゆくことを意味します。

パントリー・ネットワークの構築

そもそも、子どもが抱えている課題は、しばしば、親が抱えている課題でもあります。

その典型は、貧困の問題です。（ただし、貧困だけとは限りません。この点は、大いに強調しておくべきポイントでしょう）

ところが、子ども食堂は、貧困の問題と真正面から取り組むには難しいところがあります。開催日に食事を提供することはできますが、食に困っている家族に対して、継続的に食料を提供することはできません。

そこで、フードバンクです。「パントリー（食料提供所）」を通じて、食料を提供すること。このパントリーを、子ども食堂と連携させるのです。

この数年で、子ども・地域食堂の集まりである「八王子食堂ネットワーク」は急速に成長してきました。

今度は、この「八王子食堂ネットワーク」を背後からサポートする「パントリー・ネットワーク」を新たに構築してゆくこと。

私たちは、この二つのネットワークを相互に連携させて、八王子全体に「食のセーフティネット」を構築してゆくことを目指しているのです。

現在、私たちは、このプランを八王子市と協議しています。

実現するのかどうか、現時点では、まだわかりません。驚き呆れるほど、様々な障壁があります。

果たして、来年、私たちはどこまで実現できるのでしょうか？（応援をよろしくお願いします！）